

2025年度(第1期)事業報告書

1. 法人の概要

法人名	一般社団法人ルマナイサモア
主たる事務所の所在地	石川県金沢市
設立年月日	2025年2月18日
事業年度	2025年2月18日 ~ 2026年1月31日
目的	<p>本法人は、サモア独立国において現地の人々と協働して医療・教育支援活動を行い、その経験をサモア・日本両国において多くの人々と分かち合うことで、サモア・日本の人材及び文化交流を促進させることを目的とする。その目的に資するため、次の事業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none">サモアにおける医療支援事業サモアにおける教育支援事業国内での開発教育に関する事業イベントの企画及び物品の販売事業その他当法人の目的を達成するために必要な事業

2. 当該年度の事業概要(総括)

2025年度(第1期)は、当法人の設立初年度として、サモア独立国における「医療支援(歯科事業)」と「教育支援」の2本柱を中心に、現地機関との協働体制を大きく前進させた1年となりました。

医療支援事業では、サバイイ島のツアシビ病院歯科チームを現地パートナーとして活動を展開しました。パンデミックにより中断していたサイピピ小学校でのフッ化物洗口プロジェクトを2025年4月より再開させたほか、現地歯科医師への歯周病治療技術の指導を実施しました。その結果、ツアシビ病院における歯周病罹患率データの収集が可能となり(罹患率80%超)、さらに同病院看護部と連携して各村での協働啓発活動を行う合意を取り付けるなど、予防と治療の両面で大きな成果を上げました。日本国内でも、第35回歯科保健医療国際協力協議会総会・学術大会にて活動成果を発表し、国際協力の知見を共有しました。

教育支援事業では、サモアの児童の学力向上と教員の指導力向上を目指し、現地で算数教育ワークショップを開催し、計30名の教員に実践指導を行いました。また、クラウドファンディングで調達した資金等を活用し、Saina Toamua小学校へ算数学習キット40セットを寄贈しました。加えて、教育省ICT課との協議や、現地NGO(SELF)との協働によるSTEAM教育プロジェクトを始動

させました。10月から12月にかけて首都アピアで計4回実施したLEGOを活用したプログラミング教室のトライアルには約30名の子どもが参加し、サモアにおける非認知能力育成の可能性を確認することができました。

これらの活動を通じ、在サモア日本国大使館や現地JICA関係者、特別支援教育を行うNGO等とのネットワーク構築も力強く推進しました。一方で、国内での啓発活動については人員不足により未実施となりましたが、次年度に向けてKDDI財団からの助成金内定を受けるなど、今後の事業展開に向けた強固な基盤が整いつつあります。

次年度は、フッ化物洗口実施校の拡大や、助成金を活用したSTEAM教育イベントの全国展開、そして国内での出前授業「セカイ to ジブン」の再開などを目指し、サモアと日本の人材・文化交流をさらに促進してまいります。

3. 事業内容

(1) 医療支援事業(歯科事業)

①事業の目的	
<p>本医療支援事業(歯科事業)は、サモアのサイピピ島における成人および小、中学生の口腔衛生の向上を目的に実施するものである。</p> <p>また、事業報告や学会発表、広報活動等の啓発活動を通じて、サモアをはじめとする開発途上国における医療の発展に貢献することも目的の一つである。</p>	
②実施内容	
<ul style="list-style-type: none"> ● サモアで現地の歯科医師と協働し、以下の活動を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ○ サイピピ村サイピピ小学校でのむし歯予防プロジェクト ○ 歯科医師のための歯周病治療技術向上プロジェクト ○ 医科の医療従事者へ歯周病と全身疾患との関係性の情報共有 ○ ツアシビ病院看護部との協議 ● 日本国内で啓発活動を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 第35回歯科保健医療国際協力協議会総会・学術大会での発表 	
③実施期間	
2025年4月	<ul style="list-style-type: none"> ● サイピピ小学校でフッ化物洗口の再開(浦崎・古瀬) ● 現地歯科医師の歯周病治療技術向上のための講義・指導の実施(浦崎・古瀬) ● ツアシビ病院歯科受診者の歯周病の罹患率の調査の実施(浦崎・古瀬)
2025年7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第35回歯科保健医療国際協力協議会総会・学術大会にて「サモア独立国におけるルマナイサモアの活動風景 ～これまでを振り返りこれからを考える～」という演題で発表(浦崎・古瀬)

2025年9月

- ツアシビ病院看護部への訪問・協議(浦崎・古瀬)

④成果・進捗

- 2013年から2019年にサイピピ小学校で実施したフッ化物洗口では、児童の虫歯は劇的に減少した。2020年からのパンデミックにより同活動が中断していたが、2025年4月の現地活動から、同地域でフッ化物洗口を再開することになった。
- ツアシビ病院の歯科スタッフが、日々の活動で積極的に歯周病治療に介入するようになったことで、同病院の患者の歯周病の罹患率について簡易的なデータを収集できるようになった。解析の結果、80%超の罹患率であることが判明した。
- ツアシビ病院看護部とパートナーシップを結び、今後彼らが行う各村の婦人会への訪問活動に同行し、歯科啓発活動を協働で行うことで合意した。
- 第35回歯科保健医療国際協力協議会総会・学術大会に参加し、当活動の発表を通じて歯科分野における国際協力について他団体と情報共有した。



(2)教育支援事業

①事業の目的

本教育支援事業は、サモアにおける教育の質向上及び子どもたちの学習機会拡大を目的として実施するものである。特に、現地の教員の指導力向上(算数教育)や、児童・生徒の認知能力と非認知能力の育成を目指すものである。

②実施内容

- サモアで現地教員向けの研修を実施した。
- サモアの学校(教育施設)に対して学習用具を寄贈をした。
- 特別支援教育を行う現地NGOを訪問した。
- サモア教育省との協議を行った。
- 現地NGOとSTEAM教育プロジェクトを開始した。

③実施期間

2025年5月	<ul style="list-style-type: none"> ● All Saints Anglican小学校で教員向け算数教育ワークショップの実施(板垣) ● Saina Toamua小学校で授業視察、学習用具の寄贈、教員向け研修の実施(板垣) ● 特別支援学校Aoga Fiamalamalamaへの学習用具の寄贈(板垣) ● 障害児に対して特別支援教育を行う現地NGO団体SENESEと協議(板垣) ● サモア教育省ICT課と協議(板垣) ● 現地NGOのSamoa Early Learning Foundation(SELF)と協議(板垣)
2025年10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ● SELFとLEGOプログラムのトライアル実施(板垣)

④成果・進捗

- 教員向けの算数教育ワークショップでは、計30名の教員に対して、基礎計算能力の向上を目的とした教育プログラムを紹介し、効果的な授業活動について講義と実践指導を行った。
- Saina Toamua小学校に、クラウドファンディングによって調達した算数学習キットを40セット寄贈した。
- サモア教育省ICT課を訪問し、Moodleプラットフォーム活用状況等について聞き取りを行い、当団体とのデジタル教育コンテンツ開発における将来の協力について協議した。現地教育省から前向きな反応が得られ、今後の連携に向けて、協議を継続していくこととなった。
- 初等教育支援活動を行う現地NGOのSamoa Early Learning Foundation(SELF)と協働で、STEAM教育プロジェクトを現地で展開することで合意した。
- STEAM教育プロジェクトの一環で、LEGOを活用した子ども向けプログラミング教室(LEGOプログラム)のトライアルを実施した。首都アピアで10月18日、11月1日、12月16日、18日の計4回開催し、約30名の子どもが参加した。トライアルを通じて、サモアにおける本プログラムの実施可能性が確認されるとともに、子どもたちが楽しみながら協働的に学ぶ姿が見られ、非認知能力の育成につながる可能性が示された。



(3) 国内事業

① 事業の目的

本国内事業は、日本国内の市民の皆様に対して身近に参加できる国際協力・国際交流の機会の提供を目指すものである。参加者の異文化や国際協力に対する理解の向上を目的に、展示会や学校等への出前授業を実施する。

② 実施内容

今年度は、実施可能なメンバーを確保できなかったため未実施。

4. 社員・役員に関する事項

(1) 社員の状況

- 社員数: 3名 (期末現在)

(2) 役員の状況

役職	氏名
代表理事	浦崎 裕之
理事	古瀬 大治
社員	板垣 暁歩

5. 会議に関する事項

法人化初年度のため、未実施。

6. 助成金・補助金・寄付等の状況

本事業年度において、以下のとおり外部からの支援を受けた。

- クラウドファンディングによる支援金: 136,426円
(当該金額のうち一部は、クラウドファンディングプラットフォーム利用に伴う手数料として支出した。)
- 個人からの寄付金: 8,000円

クラウドファンディングによる支援金は、主にサモアにおける教育支援事業(教員向け研修、教材購入および寄贈、教育プログラムの試行等)の費用として使用した。

なお、本事業年度において、KDDI財団による助成金について内定の通知を受けた。当該助成金は、所定の手続きを経た上で、次年度(2026年度)に交付される予定であり、交付が確定した場合には、次年度の教育支援事業(STEAM教育プロジェクト)に活用する予定である。

7. 対外的な活動・連携状況

本事業年度において、本法人は事業の実施および準備にあたり、以下の対外的な活動および関係機関との連携を行った。

(1) 現地医療・教育関係機関との連携

- サモア・サバイイ島にある公立のツアシビ病院の歯科医師チームを2018年より現地パートナーとしており、上記歯科事業の活動を行なっている。今年度においても、同じ体制で活動を継続的に実施した。
- 2024年より開始した教員向け算数教育ワークショップの参加者を中心に、現地の小学校教員のコミュニティを構築・拡大している。また、ワークショップ参加者が勤務する小学校等を訪問し、教員および学校関係者との意見交換を行い、現地の教育現場における課題やニーズについて理解を深め、今後の教育支援事業の内容検討に活かした。

(2) 行政機関との情報共有

- 在サモア日本国大使館を訪問し、本法人の支援事業の概要および活動方針について説明を行った。医療・教育分野における現地の課題や、日本の関係機関との連携可能性について意見交換を行い、今後の活動に向けた知見を得た。
- サモア教育省関係部署を訪問し、算数教育分野におけるICT活用や教材開発等について意見交換を行った。現地の教育方針や制度について理解を深め、将来的な連携の可能性について確認した。

(3) 現地団体・NGOとの連携

- 現地在住JICA歯科衛生士と共同活動を開始した。
- 初等教育支援活動を行う現地NGO団体SELFと連携してSTEAM教育プロジェクトを開始した。
- 障害児に対して特別支援教育を行う現地NGO団体Aoga FiamalamalamaとSENESEの2団体を訪問し、活動の見学および意見交換を行った。現地の教育方針や制度、直面している課題についての理解を深め、将来的な連携の可能性について協議した。

(4) 情報発信・広報活動

本法人のWebサイトおよびSNSを通じて、現地での活動状況や事業の進捗について情報発信を行った。これにより、支援者や関係者に対する活動の透明性向上に努めた。

8. 次年度に向けた課題と展望

(1) 医療支援事業(歯科事業)

- フッ化物洗口実施校を増やす
- 現地歯科関係者との共同活動を増やす
- 更なるツアシビ病院歯科に来院する患者の歯周病罹患率のデータを蓄積する
- 歯周病と全身疾患との関連性の周知のために現地医師との意見交換の場を設ける

(2) 教育支援事業

- 現地教員向けワークショップの実施と学校訪問、教材寄贈の継続を通じて、現地教員のコミュニティの拡大を進める
- 教員の指導力向上と児童・生徒の学力向上に資する質の高い支援のあり方を引き続き模索する。
- STEAM教育プロジェクトの発展。LEGOプログラムやICT教育についての啓発を目的としたイベントを全国で開催する(助成金を活用予定)。

- 現地教育省や特別支援教育NGOとの協議を加速させ、具体的な連携事業の実現を目指す。

(3)国内事業

- 日本国内の小・中学校・高校に世界の問題を考える授業プログラムを提供する出前授業プログラム「セカイ to ジブン」プロジェクトや、サモア展の実施を再開する。

9. 附記事項

本事業報告書は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第124条に基づき作成したものである。

以上